令和3年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：　11月16日（火）
会　場：　十日市コミュニティセンター

1．地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
自主防災の取組にむけて	・十日市6区は，人口が増えて，家やアパートも多く建っているが，同時に空き家も増えている。このことと，コロナによる行事の中止によって，地域のつながりが薄れてきている。自主防災の取組をしようとしたが，思うように進んでいないので，常会などつながりがあるところから始めていく。 ・十日市4区では，地区防災やサロンなどに取り組んでいる。いきいき元気サロンは，女性会が集会所で始め，最初40人程度の住民が集まった。その活動の中で自主防災に取り組もうという声が出た。当該地区は，老人会，亭主会，子ども会，女性会など各種団体の団結力が強く，元気サロンを当番制で運営している。そのような団体がいるので，結びつきが強く，自主防災の取組がしやすいのではないか。 ・十日市2区は，常会が集まった連合体である。 ・このように，十日市地区は規模が大きく，様々な形態の区で成立していることから，行政側から依頼される場合（元気サロンや防災会議など）は，区単位で話をされた方がいいと思う。	十日市の実情を知ることができた。参考にさせていただく。
高平林業試験場などの活用	・元大樽池の付近は，土砂災害危険地域である。高平林業試験場が，県から市に譲渡されると聞くが，どのように活用するのか。 ・道路をつけて，酒屋側の道路につなげるようにしてほしい。また，市民の力も生かして，桜やもみじなどを植え，市街地の見える，憩いの森にするべきではないか。今後，活用に向けて，市民の意見を聞いてもらえるのか。 ・トレッタ三次周辺は，どのような活用をされるのか。	・高平林業試験場については，防災をメインとしているが白紙であり，土地の調査を行い，県と調整・協議をしている。まちづくりトークなどの機会をとらえて，市民の皆さんの意見を聞きたい。 ・大樽池の跡地活用については，検討をしている。 ・トレッタ三次裏の土地の活用方法については，民間事業者へのヒアリングなどを実施するなど，今の地形を生かせるような案を検討している。周辺には美術館やワイナリーがあり，多くの人が来訪され，ロケーションとしてはいい。防災施設よりも，集客施設を計画している。
十日市地区における避難	・基幹避難所の十日市コミュニティセンターは，2階まで浸かる可能性があり，多くの避難者を受け入れることができない。基幹避難所として機能しないであろう場所よりも，車で高台に逃げるように周知した方がいいのではないか。一方で，高齢者が車の中で過ごすことは心配である。 ・どれぐらいの台数が避難できるのか。アグリパーク構想においても，避難できるような駐車場を整備してほしい。 ・どのような課題があるのか知るため，十日市地区から車で一斉に逃げる避難訓練をしようという提案もでている。昭和47年水害を受けた地域の方による，水害の実体験を伝える機会が必要である。	・基幹避難所のあり方が課題となっている。十日市地区などの市街地では，高台に逃げる方もおられ，みよし運動公園一帯に，車で，家族で避難されたケースもある。 ・災害への準備として，（株）ダイナムと，駐車場を一時的な避難場所として活用することや，避難時における施設内トイレの使用について，連携協定を締結したところである。他にも，ナフコの駐車場，CCプラザやサングリーンの立体駐車場などを，一時的な避難所として活用できるように，連携協定を締結させていただいている。
サイレンについて	・避難レベルを聞くだけでは危機感を持たない。機能別消防団員がサイレンを鳴らし，赤色灯を点けながら，町内を巡回した方が，危機感が出てくるのではないか。市役所のサイレンでもいい。土師ダムの放水に関するサイレンは鳴っている。 ・どのタイミングでサイレンが鳴るのか，何を意味するサイレンか，市民がわからない場合もあるので，ピオネットを利用するなどして，周知をした方がいい。	・警戒レベル4で，市役所のサイレンを鳴らすようにしている。土師ダムと連携し，サイレンを鳴らしている。 ・サイレンの目的について知ってもらう取組に力を入れていく。
浚渫工事	・持続可能ということであるが，十日市地区の商店街も高齢化が進んでおり，浸水したら，再建できないかもしれない。水害から十日市を守るため，最善を尽くしてほしい。三川合流部を見ると，石が堆積し，川底が上がっている。安心確保のため，定期的に浚渫をして，川底を深くしてほしい。 ・国交省のポンプ場を視察したところ，排水ポンプも大型化し，内水対策については進んでおり，今後は，市街地に入ってこないように，堤防を補強するなどの手立てをしていくという説明を受けた。 ・旧鳥居橋から熊野橋までの間にある馬洗川沿いの堤防はカーブになって低いため，改善をした方がいい。上原地区は床下浸水になるおそれがあることを知っておいてもらいたい。	3年前に浚渫工事を実施しているが，既に，上流から大量の石が下流にきて，堆積している。定期的な浚渫工事を要望していく。
河川のライブカメラ	河川の状況が映るケーブルテレビのライブカメラは，水位がわかりやすい。市街地に直結している北溝川や片丘川の水位状況を映してもらいたい。	増水時，巴橋にあるライブカメラからは危機感を抱き，避難行動につながる。

令和3年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：　11月16日（火）
会　場：　十日市コミュニティセンター

項目	参加者の発言	市の発言
内水対策について	・十日市南7丁目には，毎年，必ず浸水し，土嚢を積む場所があり，田んぼがプールのようになって，道路も冠水する。車が落ちることがあるので，ポールを水路の反対側に立ててほしい。また，毎年浸かることから，交通止めの看板をつくり，水防団がすぐに置けるようにしてほしい。 ・岡竹地区は，溝掃除をしないため，道路が冠水する箇所が多い。岡竹地区にある介護施設，集会所や企業の社宅の駐車場に，一晩でも避難させてもらえたらと思う。	これまで田んぼが遊水地の役割をしてきたが，住宅が増えて水を逃がす箇所が少なくなってきた。

2．持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
女性会等の活動	・十日市女性会は，うどんやちらし寿司の販売などの活動をしている。平成8年ごろ発足したボランティアグループ「すみれ会」は，主に，民生委員とそのOBで構成されているが，高齢化が進み，思うような活動ができなくなっている。 ・子どもたちが自立できるように，お米を研ぐことなどを教えることができる場所が欲しい。保護を必要とする子どもたちの情報を得る機会が少なく，保護の仕方がわからない。 ・自治連合会は，市と，福祉，防災，まちづくりや教育等，色々な分野で連携しており，事務局も大変な状況である。	－
道路について	・安全のため，十日市東5丁目にある集会所に入る道路に，ラインを入れてほしい。 ・国道183号の拡張工事で，中央分離帯が一切開かない。車で十日市コミュニティセンターから三次駅の方向に行くためには，中国電力の方に行くしかない。以前，県とは，Uターンできるように約束をしたと思うので，確認をしてほしい。Uターンができなければ，警察署の方面か，CCプラザの方面に行くしかないので困る。	確認させていただきたい。